令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
（2次募集）への申請に対する所見

国立大学法人　横浜国立大学　学長　殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）（2次募集）への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

（1）構想の卓越性

〇良好な経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが期待される。

（2）構想の実現可能性

〇経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえるとやや実現可能性に欠ける。

（3）取組の継続性及び発展性

〇経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると、やや継続性・発展性に欠ける。

（4）取組の実効性

〇経営改革構想を実現するための取組は、おおむね適切であるが、やや実効性に欠ける。

（5）成果目標設定の妥当性

〇成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、水準や検証可能性がやや不十分であり、妥当性のある成果目標とするためには更なる検討が望まれる。

（6）本事業に対する姿勢

〇経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が感じられるものとなっている。

（別紙）

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
（2次募集）への申請に対する所見

国立大学法人　横浜国立大学

（検討会の所見）

○　ビジョン先行型の提案であり、もっと計画の具体性についての深堀りが必要ではないか。

○　学内の研究・産学連携の活性化のための仕掛けづくりを強化している段階にあるとお見受けする。改革の成果を高めるには、重点的にどの分野を伸ばすのか、理系・文系分野を問わず、学内資源のスクラップ・アンド・ビルドにも取り組んでいくことが必要なのではないか。

○　経営改革の理念は理解するが、提案の取組が特に全学レベルで実現出来るか否について疑念が残る。言い換えれば、もう少し改革に向けた具体的施策が必要だと考える。例えば、縦割り、サイロの解消が必要という課題認識だが、それを経営戦略本部の設置・強化などといった今回の提案だけでは解決出来ないのではないだろうか。40 歳代の学長補佐が中心となって、改革の具体案を更に深掘りすることを期待したい。

○　横浜地区のアドバンテージを生かした戦略をもっと鍛えていく必要がある。一方、40 歳代の学長補佐による大学戦略づくりは非常に評価できる。

○　具体的な取組は伺えるが、どのように全体の改革につながるのか。また、アントレプレナー教育については、その内容や受講後の成果について、マスメディアを活用するなど効果的な情報発信に取り組むべきではないか。

○　大学改革に向けた志・方向性は評価したい。一方、それを実現するための具体策はまだ不十分かと思われる。力のある研究者の多い横浜国立大学がその実力を発揮できるような全学組織の改革に向けた第一歩となることを期待したい。

○　どの取組も大学改革にとって重要なものであり、ぜひ、実現していただきたい。ただ、個々の取組の具体的な内容についてはさらに検討の余地がある。特に学内の組織構築に、横串を刺したと強調されたが、さらに運用面で工夫をしていただきたい。

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
（2次募集）への申請に対する所見

国立大学法人　福井大学　学長　殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）（2次募集）への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

（1）構想の卓越性

〇経営改革構想はやや不十分であり、特色や卓越性・優位性を持った構想にするためには更なる検討が望まれる。

（2）構想の実現可能性

〇経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると実現可能性に欠けており、構想を実現可能性のあるものとするためにはさらなる検討が望まれる。

（3）取組の継続性及び発展性

〇経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると、やや継続性・発展性に欠ける。

（4）取組の実効性

〇経営改革構想を実現するための取組は、実効性がやや不十分であり、実効性のある取組にするためには更なる検討が望まれる。

（5）成果目標設定の妥当性

〇成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、水準や検証可能性が不十分であり、妥当性のある成果目標とするためには更なる検討を要する。

（6）本事業に対する姿勢

〇経営改革構想は、経営改革の実現に向けた姿勢が感じられるが、今後、全学体制で臨む姿勢が期待される。

（別紙）

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
（2次募集）への申請に対する所見

国立大学法人　福井大学

（検討会の所見）

○　定めた KPI を達成できるとの根拠が不明確である。また、社会の要請に応えるリスキリングを全学展開するための方策がまだ十分とはいえない。

○　この構想では、福井大学が現在擁する4学部それぞれが養成している専門職のリスキリングプログラムの強化策、というレベルにとどまってしまうのではないか。産学連携についても、この内容では福井大学側にメリットはあっても、外部の企業側にどのようなメリットがあるのか、社会全体にどのように成果が還元されるのかが不明である。

○　細かな施策が前面に出過ぎていて、大学の大きな経営改革に繋がるのか疑問である。また、取組②「全学での卓越した高度専門職業人の育成改革に関する取組」について、全世代参加・多職種連携のラウンドテーブルの取組は価値があると思うが、その取組が、企業が求めるリスキリングに十分応えるのは難しいのではないか。加えて、この取組が地域全体に及ぼす影響にも疑念が残る。

○　リカレント教育を推進するうえでは、現状の産学連携強化が必要であり、高度専門職業人の定義を分かり易くした方が良い。また、ラウンドテーブルについてもその中身が重要であり、参加者が多いだけでは構想の実現に結びつかないのではないだろうか。

○　今回の提案についての説明を聞いても、教育学部の改革という側面が全面に出てきているように思えてならない。

○　全学的かつ意欲的な取組であるが、高度専門職業人をいかに卓越した職業人に育てるのかが明確になってない印象である。多くの KPI を設定して取り組むのは一つの方法ではあるが、何が鍵なのか、改革の焦点が明確になってないことが気になる。

○　教員養成系のフラッグシップをてこに、大学改革を全学展開しようとする提案ではあるが、骨太の戦略や具体的な方策が不十分で、KPI もむやみに高すぎる提案となっているのではないか。構想の実現性に大きな疑問が残る。

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
（2次募集）への申請に対する所見

国立大学法人　滋賀大学　学長　殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）（2次募集）への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

（1）構想の卓越性

〇良好な経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが期待される。

（2）構想の実現可能性

〇経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、実現可能なものとなっている。

（3）取組の継続性及び発展性

〇経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が担保されている。

（4）取組の実効性

〇経営改革構想を実現するための取組は、おおむね適切であるが、やや実効性に欠ける。

（5）成果目標設定の妥当性

〇成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、おおむね適切であるが、良好であるとまではいえない。

（6）本事業に対する姿勢

〇経営改革構想は、経営改革の実現に向けた姿勢が感じられるが、今後、全学体制で臨む姿勢が期待される。

（別紙）

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
（2次募集）への申請に対する所見

国立大学法人　滋賀大学

（検討会の所見）

○　前回申請時の農水事業を中心とした提案を見直して、データサイエンス・AI を中心とした取組に戻ってきたことは滋賀大学の特徴にマッチしていると思う。これまでの滋賀大学の取組が産業界に大きなメリットを与えたことは間違いない。また、産業界から更なる要望が来ていることも理解する。しかし、今回の計画調書に記載されているような形で産業界からの量に対する期待に応えるのは、大学の役割ではないのではないか。計画調書に記載されている「外部組織に移植可能なシステム」や「DS　高度解析システム」や「オープンイノベーションエコシステム」がその鍵なのかもしれないが、十分な説明が無かったことが残念である。

○　取組①「データサイエンス・AI 領域を核とした社会共創事業の推進」では、部門などの組織整備と URA などの人材を雇用すれば達成できるような提案となっているが、具体的にどう達成できるのかが不明である。また取組②「持続可能な大学経営改革の推進」でも組織を整備したら達成できるような主張であるが、目標が達成できるかどうかが不明である。

○　前回申請時の提案よりもずっと良くなったと思われる。一方で、受け身感が強い。データサイエンスに基軸をおいて基盤を作った前執行部の構想から抜けきれておらず、企業からの要望を受けるだけでは物足りない。全体としてジャンプできていないと感じられる。

○　前回申請時より構想はブラッシュアップされていると評価できる。もっとも、データサイエンスを取り巻く環境は大きく変化しており、企業側もそれなりに対応を進めている。この分野のフロントランナーである滋賀大学には、わが国の経済社会を DX によって達成を目指すという次なるステップに向けて牽引していくことが期待されることからすると、やや物足りなさも残る。

○　滋賀大学の強みを生かした提案になっていると判断する。その強みをより前面に出して大胆に大学の強化を進めることを期待したい。

次頁あり

○　新たな文理融合の取組に期待している。しかし、データサイエンス・AI の世界に通用する研究・開発が必用で、それが大学の役割であろう。その姿勢がないと大きな展開は期待できない。

○　前回申請時と比較して、文理融合大学へ向かう改革がより明確となり理解しやすい。一方、データサイエンスを核とした産学連携においての KPI 設定の妥当性が今一歩欲しい。

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
（2次募集）への申請に対する所見

国立大学法人　滋賀医科大学　学長　殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）（2次募集）への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

（1）構想の卓越性

〇経営改革構想は不十分であり、特色や卓越性・優位性を持った構想にするためには、更なる検討を要する。

（2）構想の実現可能性

〇経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると実現可能性に欠けており、構想を実現可能性のあるものとするためにはさらなる検討が望まれる。

（3）取組の継続性及び発展性

〇経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると、やや継続性・発展性に欠ける。

（4）取組の実効性

〇経営改革構想を実現するための取組は、実効性がやや不十分であり、実効性のある取組にするためには更なる検討が望まれる。

（5）成果目標設定の妥当性

〇成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、水準や検証可能性が不十分であり、妥当性のある成果目標とするためには更なる検討を要する。

（6）本事業に対する姿勢

〇経営改革構想は、経営改革の実現に向けた姿勢がやや不十分であり、今後、全学体制で臨む姿勢が望まれる。

（別紙）

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
（2次募集）への申請に対する所見

国立大学法人　滋賀医科大学

（検討会の所見）

○　カニクイザルを安定的に供給することは医薬品研究に重要なのであろうが、大学改革という視点が欠けている。

○　カニクイザルの繁殖の重要性、国の研究への貢献は理解出来るし、外部資金の増加により経営基盤を強化することも理解出来るが、強化した経営基盤で大学をどのように改革しようとしているのか分からない。本提案は、本事業に相応しくないと考える。

○　カニクイザルの繁殖というビジネスモデルが大学経営の改革にどうつながるのか全くわからなかった。もし安定供給の必要性がそれほど高いのであれば、この程度の資金は、AMED 等の機関から獲得することが可能ではないか。

○　カニクイザルの自家繁殖によって外部からの資金獲得を増強しようというユニークな構想であるが、本来の経営改革の目的は、カニクイザルによって調達する外部資金も合わせていかに研究力を強化するか、という点に置くべきなのではないか。そして、研究力強化の達成度を測る KPI を設定して取り組む必要がある。サル購入経費も、滋賀医科大学としての研究材料として購入するのであれば補助金の対象として認められると考えられるが、自家繁殖して他大学や研究機関等に有償で譲り渡す元手ということであれば、本補助金の対象にはふさわしくないと考えられる。

○　カニクイザルの供給はプロセスであり、それ以降の新たな戦略が何かが見えてこない。資金獲得にはなるが、これが改革につながるか否か不明である。

○　医科大学として、経営を安定させるために、カニクイザルに着目している点はユニークである。また、サルが研究に必要であることは理解できるが、そのことと大学全体の改革や運営との関連が明確になっていないと感じる。

○　構想はユニークではあるが、予算規模、経営改革の観点から、改革の実現性にかなり疑問を感じざるを得ない。計画が不十分である。

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
（2次募集）への申請に対する所見

国立大学法人　九州工業大学　学長　殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）（2次募集）への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

（1）構想の卓越性

〇経営改革構想はおおむね良好であるが、今後、更なる卓越性・優位性を持つ構想となることが期待される。

（2）構想の実現可能性

〇経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、実現可能なものとなっている。

（3）取組の継続性及び発展性

〇経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると、やや継続性・発展性に欠ける。

（4）取組の実効性

〇経営改革構想を実現するための取組は、おおむね適切であるが、やや実効性に欠ける。

（5）成果目標設定の妥当性

〇成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、水準や検証可能性がやや不十分であり、妥当性のある成果目標とするためには更なる検討が望まれる。

（6）本事業に対する姿勢

〇経営改革構想は、経営改革の実現に向けて全学体制で臨む姿勢が感じられるものとなっている。

（別紙）

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
（2次募集）への申請に対する所見

国立大学法人　九州工業大学

（検討会の所見）

○　地球規模の通信プラットフォームの確立については意欲的な取組であるが、しかしその実現可能性に疑問が残る。また、スタートアップの育成やアントレプレナー教育を推進することが期待されるが、その実効性に少し疑問が残る。

○　持続性についての説明がまだ説得的ではない。以前のロボティックスに特化した産学連携から、今回の通信基盤プラットフォームに展開することによって、どの程度持続性のある研究・教育体制を作ることができるのか。また、このプラットフォームの地域での需要構造があるのかという疑問を持つ。

○　スタートアップの実績などを考えるとオーソドックスで、概ね良好な提案ではあるが、学長のガバナンスや指導性など制度面で、構想の実現性、発展性に不安が残る。

○　経営に関しての様々な施策を検討されており期待はしたい。少し、実施体制の組織が見えづらく、学長のリーダーシップと副学長のリーダーシップの役割が読み取れない。また、KPI の設定に工夫が必要ではないか。

○　九州工業大学の強みである通信分野の実証フィールド、電波暗室を構築し、これらの実証フィールドを基点に産学連携を推進することには一定の効果が期待できる。取組①「宇宙・地上・水中の地球規模の通信プラットフォーム確立に向けた実証環境の構築」、取組②「実証環境を核とした産官学連携拠点の構築」は通信という低位レイヤが産学連携の中心になると思うが、取組③「産官学連携の教育への展開」で企業や社会が求めているリカレント、リスキリング教育は、もう少し上位のレイヤを求めている場合もあるため、取組③は取組①，②とはある程度切り離して実施した方が良いのではないだろうか。

次頁あり

○　強みの電気通信分野に注力する構想で期待が持てるが、取組はまだ緒に就いたばかりのようにお見受けする。産学連携に関して、実際の取組に着手してみないとわからない困難等もあるはずで、実際に事業や活動を動かし始めないと、これだけの KPI を達成できるかは見通せないのではないか。

○　大学の強みを生かした提案になっている。ただし、補助金の使い道の多くは設備備品費であり、本補助金の趣旨からは適当なのであろうか。

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
（2次募集）への申請に対する所見

国立大学法人　鹿児島大学　学長　殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）（2次募集）への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

（1）構想の卓越性

〇経営改革構想はおおむね良好であるが、今後、更なる卓越性・優位性を持つ構想となることが期待される。

（2）構想の実現可能性

〇経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえるとやや実現可能性に欠ける。

（3）取組の継続性及び発展性

〇経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえると、継続性・発展性に欠けており、構想を持続的なものとするためには更なる検討が望まれる。

（4）取組の実効性

〇経営改革構想を実現するための取組は、実効性がやや不十分であり、実効性のある取組にするためには更なる検討が望まれる。

（5）成果目標設定の妥当性

〇成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、水準や検証可能性がやや不十分であり、妥当性のある成果目標とするためには更なる検討が望まれる。

（6）本事業に対する姿勢

〇経営改革構想は、経営改革の実現に向けた姿勢が感じられるが、今後、全学体制で臨む姿勢が期待される。

（別紙）

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
（2次募集）への申請に対する所見

国立大学法人　鹿児島大学

（検討会の所見）

○　多くの取組を行っていることはわかるが、大学経営の取組としては緒に就いたばかりという印象を持つ。

○　多くの学部を有する中核的な地方総合大学として、各学部において地域のニーズに応じた多くの取組が行われていることは理解できたが、構想全体は総花的で、鹿児島大学全体としてどのような方向づけで改革を進めるのか、どの分野に注力するのか、組織面での仕掛け作りも含めてさらに検討することが望まれる。

○　特徴的な実証フィールドを多く有している鹿児島大学が地域の特性を十分に意識して策定した計画であるが、個別解の積み重ねに見えてしまい、大学全体の改革としての実効性、実現性に懸念が残る。

○　鹿児島大学のおかれている現状と取組内容は理解できるが、これからの大学としての改革は何かが不明確ではないか。KPIの作り方が曖昧で根拠が見えてこない。目標達成のための予算作成もできていないのではないか。

○　地域貢献の視点は高く評価したい。KPI はより適切な設定をしていただきたい。補助金で人件費を賄う場合は適切な将来計画を立てていくことが必須であるが、十分な検討がなされているとは思えなかった。

○　鹿児島大学のこれまでの多様な取組は素晴らしいが、改革の観点からすると、焦点がぼけて見える。従来の取組の延長線上では、改革が進展しない恐れがある。

○　地域特性、大学の特性を総合した取組の提案であることを評価するが、それぞれの取組をさらに深堀りした地域教育の実践、研究力強化、産学連携の推進がなされることを期待する。

令和４年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
（２次募集）への申請に対する所見

国立大学法人　奈良国立大学機構　理事長　殿

国立大学改革・研究基盤強化
推進補助金に関する検討会

令和４年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）（２次募集）への申請について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり所見をお示しします。

貴学における、今後の経営改革に向けた検討の参考となれば幸いです。

記

（１）構想の卓越性

〇良好な経営改革構想となっており、他大学のモデルとなることが期待される。

（２）構想の実現可能性

〇経営改革構想及び構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、実現可能なものとなっている。

（３）取組の継続性及び発展性

〇経営改革構想を実現するための取組は、これまでの実績等を踏まえ、継続性・発展性が担保されている。

（４）取組の実効性

〇経営改革構想を実現するための取組は、おおむね適切であるが、やや実効性に欠ける。

（５）成果目標設定の妥当性

〇成果目標は、これまでの実績等を踏まえると、おおむね適切であるが、良好であるとまではいえない。

（６）本事業に対する姿勢

〇経営改革構想は、経営改革の実現に向けた姿勢が感じられるが、今後、全学体制で臨む姿勢が期待される。

（別紙）

令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
（2次募集）への申請に対する所見

国立大学法人　奈良国立大学機構

（検討会の所見）

○　前回申請時と比較して、機構内での経営改革がさらに進められていることは理解できた。本構想が目指す改革の方向性は「総合知」と「地域との連携強化」とのことであったが、その達成度合いを測る肝心なKPIが明確に掲げられていない。これでは学内全体に対して、改革の実効性を高める推進力がどれほど作用するのか定かではない。

○　前回申請時から改善されたが、両大学のシナジー効果が生まれる大学改革と経営改革が十分に達成されるかどうかは不明である。KPI の設定、予算の視点からも実現可能性は低いと判断される。

○　法人統合による取組は少しずつ進みつつあると思うが、やはり経営統合を全面に打ち出せるかどうかが肝要ではないか。

○　前回申請時の提案からブラッシュアップされ、機構としての方向性、取組、外部との連携が具体的に提示されており、改革の方向性が見えてきた。両大学の教員が、本施策を自分事として捉え、積極的に関与できるよう経営層からメッセージを出し続けるなどの工夫をお願いしたい。「女子の理工系人材」と「理数・情報に強い教員」の育成には大いに期待している。取組①「経営基盤の強化」における KPI「同一法人内の柔軟な教員配置導入」がスピード感に乏しいことや、取組②「『社会をリードする女性人材』と『時代を牽引する教員』の育成」で掲げられてていないことが気になる。取組の中で、更に検討をお願いしたい。

○　網羅的な取組で、今後の発展が期待できる。しかし、せっかく機構を設立したので、それを生かした独創的な取組を期待したい。

○　各目標が具体的に記され、構想の理解ができる。また、実現に向けての体制もアドバイザリーボードの活用で多くの意見を取り入れ、前向きに進んでいるようにうかがえた。今後、構想で終わらないために【社会連携強化】と【総合知】を具体的な形で改革に結び付けていただきたい。

次頁あり

○　よく練られた計画になっていると評価したい。両大学の連携を核に、地域との連携および産業界との連携を進め、大学改革を本格的に進めていくことを期待したい。